

おかげさまで

第50号
2019年3月発行

【発行元】
港区芝地区総合支所協働推進課
発行部数30,000部



芝地区地域情報誌

MINATO CITY



『芝地区地域情報誌』は、地域の皆さんとともに創る情報誌です。芝地区の「いい話」を紹介したり、さまざまな行事や活動の情報を交換したり、地域の皆さんと一緒に地域のことを考えていく場として、地域情報誌を発行しています。

芝の老舗

伝統と革新の老舗

「更科布屋」

大門から道を隔て、すぐのところにある老舗蕎麦屋「芝大門 更科布屋」。初代の布屋萬吉は信州布の行商人で、蕎麦打ちが得意でした。江戸と信州の行き来を続ける中、江戸詰の藩士たちの助言により、定住できる蕎麦屋に転向します。そして寛政3年(1791)、東日本橋の薬研堀に「信州更科蕎麦処」を創業。その後、元数寄屋町(現・銀座)、露月町(現・新橋)での商いを経て、大正2年(1913)、現在の場所に店を構えます。7代目布屋萬吉を継承する金子栄一さんにお話を伺いました。

老舗を繋ぐ「街への愛情」と「家業への執着」

金子さんが生まれ育った芝大門の地は「め組の喧嘩」の舞台でも有名な芝大神宮のおひざ元。昭和の初め頃、この界隈は料亭、見番、芸者置屋が並ぶ花柳街でした。金子さんには神明のお祭りの際に、「坊やおいで」と呼ばれて芸者女神輿に乗せてもらった良き思い出があります。

つい最近も近所の女将さんから「こうちゃん」と父親の名前で呼びかけられ「いえいえ、息子のえいちゃんですよ」と応えると、「本当によく似てきたわねえ」としみじみ言われたとか。いつまでも声をかけてくれる粋な街に、愛情が深まります。



大門の地で生まれ育った7代目布屋萬吉の金子栄一さん

老舗が続く理由の一つめは「街への愛情」。金子さんは芝の老舗の集まりである「芝百年会」も積極的に盛り上げます。

理由の二つめが「家業への執着」です。

金子さんは大学卒業後、大手の食品会社に勤めたそうですが、そこで会社の上司と父親の日々の過ごし方を比べることになります。毎晩、お酒を嗜み、楽しそうに帰宅する父。品の良い

装いで、街を歩けば誰からも声がかかり、笑顔で答える様子——。そこで決心したのが企業の一員より、家業を継ぐ道を進むこと。店に戻った「門前の小僧」は、一度も教えてもらっていない蕎麦について、自然につくり方が身についていたそうです。金子家には毎日「つゆ」を飲む儀式があり、幼い頃からそんな習慣で育ったことで、店の味が舌にも体にもしみ込んだようです。

蕎麦屋の一番大事な根本は「つゆ」。江戸時代に発達した蕎麦屋は、ピーク時には江戸府内に3600軒もの店があったそうです。にもかかわらず過当競争にならず、その時代を生き抜いた理由は、「つゆ」の味が各店舗で違っていたからです。江戸の庶民は、自分の好きな味を求めて最良の店に通いました。

金子さんも、「つゆ」を常に大切に思い「更科布屋」の味を守っています。ソーシャルメディア等でなんと評価されようとも味を保つ。それが「家業への執着」です。



更科そばと変わりそば2種を盛る「三色そば」。変わりそばは、唐辛子や梅、桜や山椒、柚子といった旬の食材を練り込み、味わいと色で季節感を演出

蕎麦屋と芝の伝統と革新

変えてはならないものがある一方、次々と新しい食材が登場し、長年使ってきた醤油の塩分濃度も微妙に変わっていきます。そのため、毎日「更科布屋の味」を確認する必要があります。そして、お客さまに毎日来てもらえるよう、価格も味も、長い伝統を維持しています。

そんななかで金子さんの代で「御前更科そば」や「変わりそば」、「二八そば」といった江戸から伝わる味に加えて、メニューに載せ始めた蕎麦があります。それがそば粉100%の「生粉打ち」です。一年中“新蕎麦”が食べられるよう、北は北海道から南は宮古島まで、収穫時期の違う蕎麦の実を入荷し、生粉打ち蕎麦を提供しています。また伝統の「変わりそば」も、7代目により味



海外からの来訪者も多い土地柄、お品書きは英語やハングルなど多言語に対応



蕎麦一筋に江戸時代から続く味を守り続ける

わいを月ごとに変える月替わりとしました。旬の食材を麺に混ぜ、蕎麦に季節感を出しています。



7代目の栄一さんと1月に入社した8代目の詩織さん

大晦日から正月にかけて更科布屋の「年越しそば」、増上寺の「除夜の鐘」と「初詣」、そして東京タワーで「初日の出」が楽しめる芝大門・浜松町。金子さんが愛する街は、国内外の人々が集い、新旧を繋いでいます。平成31年(2019)1月に、将来8代目を継ぐ長女の詩織さんが入社しました。これから彼女が継承する老舗の伝統、そして革新が楽しみでなりません。

取材：森 明／早川由紀

文：早川由紀



いぬやらい犬矢来を巡らせた店構えも堂々と、芝大門交差点の大通りに面する

Information

芝大門 更科布屋

芝大門 1-15-8

TEL 03-3436-3647

<http://www.sarashina-nunoya.com/>

都心で自然を体感する

オフィス銀の鈴代表

鈴木 洋子さん

新虎通りで花をプランターに植えるイベントで、スコップとパンジーを持って軍手をしたご婦人を、「ミツバチを飼っている方です」と紹介された。都心で養蜂とはなんと予想外のこと、「え、本当ですか！ 都心を翔けるミツバチがいるのですか」と尋ねると、「はい、天空のミツバチです」とにこやかに返事をくれた。

鈴木洋子さんとの出会いであった。



コンクリートジャングルとミツバチ

冬の青空に屹立するビルの搭屋頂上に、野鳥（セキレイ）がミツバチを狙い、嘴を向けている光景が目映った。初めて養蜂箱を見たときのこの一瞬の現実に、都心のコンクリートジャングルで「弱肉強食」という野生の自然法則を見せつけられた。日頃から新橋、虎ノ門のビジネス街の主役は人間と思い込んでいたが、都心に人間、野鳥、昆虫などの生物と緑の植物などが共存し、生活する自然界があることを強く実感させてくれた。

養蜂が都心に進出し、銀座や赤坂に養蜂箱が置かれたとは聞いていたが、養蜂家の後藤純子さんと西新橋三丁目の鈴木洋子さんが偶然に出会い、屋上に菜畑のある第二鈴丸ビルの搭屋に、後藤さんの指導のもと、2年ほど前に西洋ミツバチの養蜂箱が2箱設置されることとなったという。

後藤さんによれば、ミツバチは人類よりも先に誕生していたといわれ、人間との付き合いも長く、ハチミツを栄養源のひとつとしてきた。従って、人にとってミツバチは昆虫であると同時に家畜とされるユニークな存在である。

ミツバチを飼う場所は2km範囲に蜜源植物となる花、樹木の生育緑地があり、陽の当たり、風の向き、高さなどいろいろな条件があり、人が不動産物件を選ぶより難しいという。ミツバチは、超高層のビル群を大きな石塊と考えているに相違なく、蜜と花粉のとれる槐などの樹木の茂る街路を緑

の道とし、芝公園、浜離宮、日比谷公園の桜などの樹々、神社の樹、路傍の‘セイタカアワダチソウ’さえも自然の蜜源として都心の自然の中で生活している。

女王蜂の寿命はほぼ2年、働き蜂は40日前後といわれている。ハチたちは春から秋まで蜜と花粉を集めるのにせっせと働き、冬は冬眠するのではなく、活動を控えて蓄えた蜜を栄養として春を待っている。ハチミツは、季節によって蜜源の花が異なるので、春は黄色の透明度の高い蜜、夏は茶色に近い蜜が採れている。

西新橋産のはちみつを販売するライフストア鈴丸



旧暦を大切にする鈴木さん

「ようこそ」と迎えてくれた鈴木さんが、オフィスのテーブルの中央に設えた茶釜から「漆の味がするかもしれません」と言いながら白湯を茶碗に注いでくださった。「茶釜の漆塗仕上げが感じられますか」との言葉は、いかにも五感を大切にしている感性の人である。

セレクトショップのライフストア鈴丸、多目的スペースのオフィス銀の鈴を経営する鈴木さんは、ご自身が「月」の満ち欠けや季節に合わせて作られている日本の旧暦に興味を持ち、屋上の菜畑に関わりながら季節が移ろう自然に感応する感覚を大事にしている。さらに、中国茶やヨガのような身体感覚講座などのイベントを主宰し、自然と調和をした生き方を大切にしている。

そのために、都心の自然と関わる養蜂にすぐに同意をされたそうである。

都心での養蜂は、周囲の人々に蜜源植物の生育が意識され、新橋、虎ノ門の自然に関心をひきつけ、花咲く環境が取り戻せるという利点もあり、環境改善にも貢献できると後藤さんと鈴木さんは考えている。



ミツバチを狙う搭屋のセキレイ

都心の小さなミツバチ

茶匙一杯ほどの蜜しか集められない一生、短命のミツバチの一匹から、蜜源植物を通して都心の自然環境の在り方が見えて来るとともに、高層ビル街の主役の人間も都心での自然界の一部に属していることを認識させられた。加えて、都心のコンクリートジャングルの中で自然を大切にできる可能性に夢をかけている人々が見えてきた。



上は養蜂箱が置かれた屋上で鈴木さん（左）と養蜂家の後藤さん（右）。右はご自身の著書である「だれもしらないみつばちのものがたり」を持つ後藤さん



参考文献

後藤 純子著、ナイトウ ユキ絵

「だれもしらないみつばちのものがたり」

取材協力：鈴木 洋子さん、後藤 純子さん

文：森 明

Information

ライフストア鈴丸・オフィス銀の鈴
西新橋 3-8-1 第二鈴丸ビル

西洋ミツバチ



養蜂箱



小豆島を 楽しむ 「ポンテセとうみ」



浜松町2丁目にある「ポンテセとうみ」は、平成30年(2018)11月1日にオープンしました。

ポンテとはイタリア語で「橋・架け橋」という意味で、「香川県や小豆島と、港区をつなぐ懸け橋」がお店のコンセプトです。

代表の笠井さんは、「長年仕事でお世話になってきた港区と故郷小豆島に恩返しをしたい」と、「ポンテセとうみ」を出店されました。

1階には小豆島を中心とした香川県の食のセレクトマーケットとカフェを併設したイトインスペースを用意。2階は香川県の味覚を味わえる飲食店が4店舗入っています。



明るい店内には食べてみたい商品がたくさん

「小豆島といえば代表的な商品はやはりオリーブです。10月初めより、様々なメーカーが一斉に『新漬け』を販売しますが、メーカーの垣根をこえて一同に揃うことはあまりありません。当店では多彩な新漬けが揃うのが自慢です」と説明してくれるのが店長の福田さん。新漬けとはオリーブの実を塩漬けたもので、熟す前の鮮やかな緑色の状態のものを収穫して、使用するのが特徴です。わずかな期間しか収穫できない秋だけの味わいだとか。

また加工品のなかでもオリーブオイルは人気の商品です。



フレッシュなジュースやコーヒーを店内で

「海外のものは機械で収穫しますが、小豆島のオリーブはすべて手摘みなんです。オリーブオイルの味や香りに抵抗のある方には、オレイン酸はそのままに、色や香りのない商品をご用意しています。こちらのファンも多いですね」

そして、新しい防災食として登場したのがレトルト食品の「HOZON HOZON」。

「7年間保存でき、スプーン付きで、温めてもこのままでも美味しく召し上がれます。『和風鯛ごはん』

など9種類の味があり、常備食としても人気で、夜食やアウトドア、海外旅行にもおすすめです」と福田さんは自信をもって勧めます。

素麺と醤油も小豆島を代表する物産品ですが、中でも醤油は大小あわせて22軒ほどの醤油蔵があります。小豆島出身で醤油桶づくりの経験もあるという、坂口さんにお話をうかがいました。

「小豆島の醤油は、いまでも木桶でつくられているところもあり、長いところでは醸造に4年ほどかけています。昔から原料になる塩が豊富だったことが、醤油の生産につながったのだと聞いています。それぞれ自分好みの醤油があるんです」。

坂口さんの好みの味はヤマロク醤油だそうです。みなさんもぜひ、「自分の味」を探してみてください。

「浜松町は『ポンテセとうみ』のある南側も再開発が進んでいます。人も増えて、お勤めの方、近隣にお住まいの方がランチタイムや仕事帰りなどに寄ってくれています。中には香川出身の方もいて、故郷のものが揃っていると寄ってくださることも多いんです。小豆島・香川の彩り豊かな果物や、新鮮な野菜も人気です」とスタッフの小田さんが説明してくれました。

店内イトインスペース前には、栄養たっぷりのコールドプレスジュースやスムージーが多く揃った「ファーマーズ ジュース トーキョー」があります。これからの季節は外のテラスで飲むのも気持ちがよくそうです。

2階にはオリーブ牛の鉄板焼き、丸亀名物のジュシーな「骨付鳥」、本格手打ちさぬきうどん、香川の日本酒が楽しめるスペインバルなど、瀬戸内グルメが味わえるレストランも揃っています。



小豆島の醤油に詳しい坂口さん

近くには高松藩大名屋敷の邸内社であった「讃岐小白稲荷神社」があり、浜松町で東京湾の海風と、瀬戸内の風味が溶けあうのを見守っているようでした。



入口前にはオリーブの木が植えられています



小豆島のオリーブ商品はバリエーション豊か



パッケージも楽しい新防災食「HOZON HOZON」



小豆島のゆるキャラ「オリーブしまちゃん」と、小田さん(左)、店長の福田さん(右)



新鮮な果物や野菜も揃っています

取材協力：ポンテセとうみ 福田眞二郎さん

取材・文・写真：森田 友子

Information

ポンテセとうみ

浜松町 2-6-5 浜松町エクセレントビル 1F・2F

TEL 03-6435-6100

<http://ponte-setoumi.com>



東京慈恵会医科大学附属病院通信・第2回

慈恵大学の歴史と沿革、医療を紹介します

東京慈恵会医科大学は高木兼寛により創設され、今年で139年目を迎えます。
2回目の今回は、大学と附属病院の歴史を紐解きながら、慈恵の医療とは何かを紹介いたします。



「慈恵の心」に根ざした、 患者さんを中心に考える医療

「病気を診ずして 病人を診よ」

東京慈恵会医科大学の理念であるこの言葉は、病んでいる「臓器」のみを診るのではなく、病に苦しむ人に向き合い、その人そのものを診ることの大切さを表しています。

東京慈恵会医科大学の前身となる成医会講習所は、高木兼寛(1849-1920)により明治14年(1881)に創設されました。これに先立つ6年前、高木はイギリスのセント・トーマス病院医学校に留学。人道主義に基づいたイギリス医学に深い感銘を受け、帰国後は、医療を受けられない貧しい人たちのために病院と医学校を作ることを決意します。当時、日本の医学界は、病人を医学の研究材料のようにとらえる風潮がありましたが、患者さんの心の痛みに関心し、患者さんを中心に考える医療こそ必要だと、高木は痛感したのです。

その後、明治20年(1887)に時の皇后陛下、昭憲皇后のご意向により、「慈恵」の名を冠した病院「東京慈恵医院」が誕生しました。

この精神は、130年をすぎた今に至るまで色あせることなく受け継がれ、ここで働くすべてのスタッフのよりどころとなっています。医師、看護師をはじめ多職種が連携するチーム医療や、地域の病院や看護施設と協力する地域連携はその一例。



東京慈恵会医科大学の創設者、高木兼寛。海軍軍人、海軍軍医総監(最終階級)。医学博士。男爵。脚気の撲滅に尽力した。当時、日本の食文化では馴染みの薄かったカレーを脚気の予防として海軍の食事に取入れた



入院から外来まで、慈しみ恵む「慈恵の心」をもって医療を実践しています。

「医師と看護婦は車の両輪のごとし」

創設者の高木兼寛は、留学先のイギリスでナイチンゲールの看護に触れ、上の言葉を残しています。かの地で高木は、医師と看護師が一体となって治療にあたる現場を目の当たりにし、質の高い医療は両者の連携なくしては成り立たないことを実感しました。そして帰国後、国内初となる看護師



昭和5年(1930)に開院した東京慈恵会医院本館(現F棟)

芝地区

いきいき

プラザ

トレーニング施設編

三田・神明・虎ノ門の3館では、健康づくりをサポートするトレーニングルームが設置され、どなたでも、ご自身の都合に合わせてご利用できます。スタッフが一人ひとりの身体の状態に合わせてアドバイスをを行い、またウエイトマシンを使用した運動や、多彩なショーツプログラムも用意しています。

取材・文・写真:米原剛

三田・神明・虎ノ門のトレーニングルームでは さまざまなトレーニングが行われています

港区ではご高齢の方々が介護が必要になることなく、いつまでも健康でいきいきと生活していくための【元気づくり事業】(介護予防事業)を行っています。そのなかにはさまざまな運動教室が用意されています。トレーニングプログラムは、身体をほぐしたい方から、しっかり動かしたい方まで、強度や内容も豊富に用意されています。

三 田

『土曜日体操教室』

毎週土曜日 10:00～11:30

当日参加制。シューズも不要で気軽に体操を行えます。



みんなといきいき体操



ぜひ、お友達やご家族をお誘いあわせの上、ご参加ください♪

港区オリジナルの体操です。運動を始めた方におすすめです！

『フリーマシントレーニング』

毎週火・土曜日

①14:00～14:30 ②14:30～15:00

③15:00～15:30 ④15:30～16:00

当日参加制。筋力トレーニングマシンを使い効率良くトレーニングを行います。



教育所を開設したのです。スタッフたちは今日も、クリミアの天使と呼ばれるナイチンゲールの教えに基づき、「看護とは、生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えること」ととらえ、患者さんを一人の人間として尊重し、相手の立場に立った患者さん主体の看護を提供しています。

創設以来、脈々と息づく挑戦スピリット

「患者さんを中心に据える医療とは何か？」
「患者さんの病を治すために何ができるだろうか？」

そうした自らへの問いかけに応えるべく、創設以来、スタッフたちは未知の分野への挑戦を繰り返してきました。その象徴的なエピソードが、脚気^{かけ}の撲滅です。

明治時代、コレラと並ぶ国民病だった脚気。多くの病死者を出した原因不明のこの病は、創設者・高木兼寛の研究によって撲滅されました。高木は脚気の原因を、当時主流だった細菌感染説を退けて、栄養の欠陥によるものだと主張。軍医として責任者を務めていた海軍の練習船を舞台に、遠洋航海中の食事による大規模介入試験を行って自説を科学的に証明しました。その結果、脚気を撲滅し、大勢の命を救ったのです。

明治17年(1884)、脚気予防試験を兼ねて、287日間の航海を行った大日本帝国海軍の練習艦「筑波」



上はフローレンス・ナイチンゲール(1820-1910)。イギリスの看護師。医療制度を改革し、また看護師の育成に力を注ぎ、近代看護教育の母と呼ばれる。右はナイチンゲールの考える看護システムにのっとり設計・建設されたナイチンゲール病棟。大正5年(1919)撮影



この取組が後のビタミンの発見に大きく貢献したことから、高木は「ビタミンの父」として世界的な評価を受けています。また、日本の医学の発展と向上に生涯を捧げた彼の挑戦スピリットは後進へと引き継がれ、現在に至るまで数多くの最新医療を生み出してきました。その取組は日本の医療界をリードするとともに、患者さんの治療にも生かされています。

取材：米原 剛 写真・資料提供：学校法人 慈恵大学



「看護婦教育所記念碑」
明治18年(1885)、日本初の看護師教育機関として高木により有志共立東京病院看護婦教育所(現慈恵看護専門学校)が設立された



明治天皇の皇后、昭憲皇后陛下(左)と、明治18年度(1885)の卒業生である成医会講習所第1期生(右)。近代女子教育を振興したことで知られる



明治14年(1881)1月に研究団体「成医会」を、次いで同5月に成医会講習所を設立。その地に創立100周年を記念して建立された「成医会講習所跡碑」

Information

学校法人 慈恵大学
西新橋 3-25-8
TEL 03-3433-1111(大代表)
<http://www.jikei.ac.jp>

神明

『練功十八法』
毎週木曜日
10:00~10:15
中国でおこなわれている、病気の治療・予防も目的とした健康体操です。呼吸に合わせてゆったりとした動きで全身を動かします。



『はじめてリズム30分』
毎週水曜日
14:15~14:45
リズム運動がはじめての方でも参加できます。リズムに合わせた全身エクササイズで気持ちの良い汗をかきましょう！



土日のプログラム、また祝日に特別プログラムが企画されることもありますので、HPや館内掲示をご覧ください！

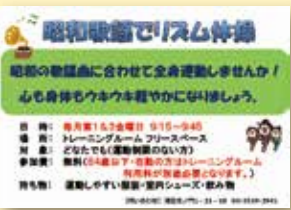


虎ノ門

『からだ改善エクササイズ』
毎週月曜日
18:30~19:00
週ごとにテーマを変えて、ストレッチやトレーニングを行っています。基本となる体幹を鍛えることや、日常動作がよりスムーズに行えるよう全身の調整が行われます。



『昭和歌謡でリズム体操』
毎週第1・3金曜日
9:15~9:45
昭和の名曲に合わせて身体を動かし、有酸素運動を楽しめます。懐かしい曲を口ずさみながら動きも覚え、脳も体も元気になる体操です。



『昼のとらトレ体操教室』
毎週土曜日
11:00~11:45
「筋力向上」「関節可動域向上」「バランス能力向上」のテーマをもとにしたトレーニングを月替わりで行います。体力に自信のない方も、座位での動きからスタートするため、安心してご参加いただけます。



Information

芝地区のいきいきプラザ3館では、このほかにも健康づくりに役立つさまざまな講座が用意されています。ぜひ、各館にご相談ください。

三田いきいきプラザ
芝4-1-17 TEL 03-3452-9421

神明いきいきプラザ(プラザ神明)
浜松町1-6-7 TEL 03-3436-2500

虎ノ門いきいきプラザ(とらトピア)
虎ノ門1-21-10 TEL 03-3539-2941

三田

入口

神明

入口

虎ノ門

入口

●写真・資料提供 指定管理者：百葉の会・東急コミュニティー共同事業体

「サロン活動」訪問記

「サロン活動」とは社会福祉法人港区社会福祉協議会(港社協)に登録している、地域に密着した活動の一つです。

「誰もが気軽に定期的に集まれる場」で「お互いに気かけあえる関係づくりや社会的孤立の防止」に一役買っています。

2月現在、芝地区には9ヵ所で「サロン」活動が行われています。そのうちの一つ「とらサロン」の活動の様子をお伝えしましょう。



みんなで一緒に歌を歌いました(平成30年(2018)12月)

「とらサロン」は月に1回、第4金曜日午後1時半から3時まで「愛宕コミュニティはうす」で活動しています。茶話会に加えて毎回のイベントでは講師を招いての講演、虎ノ門いきいきプラザのスタッフによる体操や栄養講座、高齢者支援センターや「ふれあい相談員」からの情報提供など、参加者の希望を取り入れながら、幅広い内容を提供しています。

参加者の笑い声が絶えず、この日を楽しみに集まってくる参加者が顔見知りになり、住民同士のつながりができます。友達が出来たと、うれしい言葉も聞こえてきます。

平成30年(2018)12月は「みんなで歌おう」と銘打って、近所にお住まいの方の独唱も交えて、約1時間皆で楽しく歌いました。懐メロや童謡など、誰でも知っている歌をお腹の底から大きな声で10曲以上歌いました。なんと、ゼロ歳児から103歳の方まで、和やかに楽しい時を過ごしました。

都心のオフィス街にこんなにも大勢の方々がいらっしゃるのかと驚くほど、毎回たくさんの方が参加しています。

次年度も地域の皆さまに喜んで頂けるよう、スタッフ一同でアイデアを出しあいながら、運営していくとのことです。

「とらサロン」は平成30年(2018)4月に港社協に登録し、芝地区のなかでは日が浅いサロン活動ですが、地域に密着し、地域の信頼を重ね着実に取り組んでいます。



江戸の話と小噺で、笑う門には福来る。新春初笑いイベント(平成31年(2019)1月)



お茶を飲みながら、気軽におしゃべり

皆さんも一度「とらサロン」に顔を出してみてもいいのではないでしょうか。

取材・文:伊藤 早苗
写真:米原 剛



虎ノ門いきいきプラザのスタッフによる健康体操(平成31年(2019)2月)



Information

問い合わせ先
港区社会福祉協議会
地域福祉係
TEL 03-6230-0281

区立御成門中学校ダンス部が 全国コンクール金賞に輝きました!



平成30年(2018)10月14日、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で行われた「第6回全日本小中学生ダンスコンクール」全国大会に御成門中ダンス部が出場し、中学生部門・学校参加の部で金賞を受賞しました。

出場したのは2、3年生の女子生徒13名。女性の逞しさを表現したヒップホップをステージで披露し、大きな拍手を受けました。練習の成果を力いっぱい出し切ったパフォーマンスへの高い評価に、生徒たちの喜びは最高潮に。

ダンス部は創部わずか6年目。週3日、主に学校体育館で教員顧問や外部講師の指導を受けながら練習しています。同年7月の「社会を



出場メンバー(上)
と練習の様子(右)



明るくする運動「みなと区民の集い」や「新橋こいち祭り」、10月6日の「みなと区民まつり」のステージにも出演し、地域の皆さんへ地元中学生の躍動を届けました。御成門中ダンス部の活躍に、今後もぜひご注目ください。

大会の様子は、公式ホームページ
<http://www.asahi.com/event/dance/>でご覧いただけます。

引っ越し
しました!!

どなたでも自由に入出りできるまちの交流拠点「芝の家」には、日々近所の方から遠方の方まで、年代も赤ちゃんから学生、シニア世代の方まで、多種多様な方が立ち寄りそれぞれの時間を過ごしています。

「芝の家」は芝地区の地域事業「地域をつなぐ! 交流の場づくりプロジェクト」の拠点。港区芝地区総合支所と慶應義塾大学の協働でスタートしました。芝の家は平成31年(2019)1月より、これまでの場所から3軒となりにお引っ越し。装いも新たにスタートいたしました。また姉妹拠点「ご近所ろボ新橋」(新橋6-4-2)もございますので、この機会にぜひ、お立ち寄りください。



お引っ越し

家具も備品もたくさんのご協力をいただき、手持ちで3軒となりの建物へ移動。手弁当での引っ越しでしたが、子どもから大人まで多くの方が力を貸してくださいました。家具を運んだり、収納を考えたり、道具をしまう箱のカバーやラベルを作ったり。色々な方々が日替わりで、自分のできることでお手伝いをいただきました。改めて「芝の家」への愛着や、みなさまの支え合いの力を感じました。そして空っぽだった部屋もすっかり落ち着ける雰囲気になりました。玄関にはスタッフ手作りの新しい看板も置かれています! 新しい場所がどんどころか覗きにいらしゃいませんか? お散歩・買い物などのついでに気軽にお立ち寄りください。



歩いて
40歩



開室式

1月11日の朝、開室式を開催しました。テーブルカットの後、みなさんと室内へ。この日は鏡開きを行いました。そしておしるこをご用意。おしゃべりを楽しみながら、みなさんに新しい芝の家の空間を味わっていただけました。夜のオープンでは、百人一首を楽しむ場面もありました。初めての方、懐かしい方、様々な方にお越しいただいて新しい場所での日々がスタートしました。



遊び・くつろぎの場所として

芝の家には、無料のお茶や持ち寄りのおやつ、そして駄菓子やコーヒーの販売を用意。また遊び道具では、積み木やままごとのほか、かるたやベーゴマ・木コマ、お手玉、あやとりなど、昔馴染みのおもちゃもいろいろ揃っています。外には竹馬もありますよ!



Information

芝の家

港区芝 3-26-8 (1月に移転)

TEL 03-3453-0474

開室日時: 火・木曜日/11:00~16:00、水・金・土曜日/12:00~17:00

休: 日・月曜日、祝日

写真協力: 芝の家 文: 芝地区総合支所協働推進課

芝 de Meet The Art ～アートに親しむまち、芝～

芝地区総合支所では、地域のにぎわいやイメージアップにつながるようなアート作品を展示し、安全・安心の向上やアートにふれあえる環境の創出をめざす取り組み「芝 de Meet The Art～アートに親しむまち、芝～」を実施しています。

配電用地上機器(トランスボックス)にアート作品を掲示しました!!

平成30年(2018)11月に、東京タワー通りの永井坂にある配電用地上機器(トランスボックス)3基にアート作品を掲示しました。場所は、永井坂の飯倉交差点付近と東京タワーの入口付近です。

掲示したアート作品は、第37回障害者週間記念事業ポスター展の最優秀賞作品1点と優秀賞作品2点です。

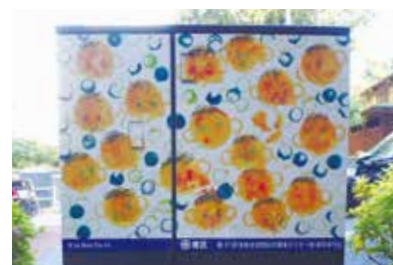
ぜひ、作品を見にお越しください!

問い合わせ先: 芝地区総合支所管理課 TEL 03-3578-3194

最優秀賞



優秀賞



地域活動紹介 「芝CCクラブ」

CCとはチャレンジコミュニティ大学の略称で、港区在住者(60歳以上)を対象に、港区と明治学院大学が連携して行っています。「芝CCクラブ」は1年間チャレンジコミュニティ大学で社会福祉や地域コミュニティ等を学んだ修了生(現在まで11期660人)のうち、芝地区在住者の有志が平成23年(2011)に立ち上げた、ボランティア活動を行っているグループです。

主な活動は6つあります。①地域環境整備として行う、アドプト活動(本芝公園・三田いきいきプラザ・勤労福祉会館)です。アドプト活動では花壇の世話をしており、年2回の花の入れ替えと定期的な水撒き・雑草取り・追肥などを行っています。②難病支援活動として、「港地域パーキンソン病友の会」への支援です。定例会が毎月1回開催されるので、会場の設営と後片付けやヒューマンぷらざまつりでの展示のお手伝いをしています。③地域交流として、「芝・みたまち倶楽部」を年6回開催しています。芝・みたまち倶楽部で



アドプト活動



平成29年(2017)にはアドプト活動が「港区景観表彰景観街づくり賞特別賞」を受賞

は、三田いきいきプラザと協働して折り紙等の講座を行っています。④地域コミュニティ活動として、「ふれ愛まつりだ、芝地区!」・「港区地域福祉フォーラム」・「介護予防フェスティバル」・「三田いきいきプラザ『みたまつり』」にも芝CCクラブとして出展しています。⑤最近では健康支援として、アロマハンドマッサージのボランティア活動も始めました。⑥会員交流として、年1回の総会、毎月定例会、新年会、忘年会、新入会員歓迎会を行っています。

新井隆治代表を中心に、自発的に参加する仲間が和気あいあいと楽しく活動しています。

文・写真: 米原 剛
資料、写真提供: 芝 CC 広報担当



芝CCクラブの定例会



「ふれ愛まつりだ、芝地区!」への出展



「芝・みたまち倶楽部」の折り紙教室

『芝地区地域情報誌』が 第50号を迎えました!

平成18年(2006)5月にスタートしました『芝地区地域情報誌』。おかげさまで、今号で第50号を迎えることができました。これからも芝地区の魅力をどんどん発信していきますので、ご愛読のほど、宜しくお願いします!

『芝地区地域情報誌』編集委員・事務局一同



●本誌の制作には以下の編集委員が参加しています
伊藤早苗/菊池弓可/桑原庸嘉子/柴崎賢一/柴崎郁子/田岡恵美/竹田和行/千葉みな子/町田明夫/森明/森田友子/米沢恵美/米原剛(五十音順 敬称略)

●今後の発行スケジュールは次の通りです
2019.6(第51号)、2019.9(第52号)、2019.12(第53号) 2020.3(第54号) ※各号発行月の20日ごろ

芝地区地域情報誌の配布について
芝地区総合支所【芝、海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1〜3丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、地区内各施設などで配付しています



港区芝地区総合支所協働推進課

〒105-8511 港区芝公園1丁目5番25号(港区役所1階)
TEL03-3578-3192 FAX03-3578-3180

ホームページ

<http://www.city.minato.tokyo.jp/>